あすなろだより

第24号
平成22年11月14日発行

社会福祉法人　松園福祉会
特別養護老人ホームあすなろ園
家族会発行
倉敷市玉島勇崎1,044番地
電話　086-528-3110
FAX　086-528-3255
ホームページ　http://www.asunaro.or.jp
E-mail　info-a@asunaro.or.jp

指先の向こうに　行き合いの空がある
刻を引き継ぐ雲に向かい「あとはあなた達に任せましたよ」
「いま　私は幸せですから」と　大声で叫びたい想いを、
じっと噛みしめています　「しあわせの里」より

面会と家族会活動に多数の参加を!!

家族会：会長
多鹿　眞澄

入園者一一〇名、それぞれ色んな事情で家庭での介護が難しくなり入園されています。ここでは在宅では出来ない生活をされており、しかも質、レベルともに高い介護を受けておられます。

これは、園の皆さんが基本的姿勢である「和顔心」に懸命に取組んでおられるからだと考えます。

毎月の面会、ケアプラン実施状況チェック、清掃奉仕等を兼ねた家族会定例会の参加家族は約半分です。

いろいろ都合があると思いますが出来る限り面会してあげて下さい。入園者は安心されますし、大変喜ばれます。定例会議では園長先生に、その時々の園の様子、介護の問題等のお話をして頂いております。また、他の家族の方と情報交換など、色んな話をする機会も増えると思います。

清掃活動は、ベランダ、窓、網戸、エアコンの噴出し口等を短時間で効率的に清掃するには、多くの人が必要です。また定例会の受付、ふれあい喫茶の手伝いも同様で人数が必要です。

判らない事があれば、園、または家族会の役員に聞いて下さい。また、家族の心構えや役割、各種行事について「家族会ハンドブック」にまとめています、参考にして下さい。

倉敷市ボランティア 介護支援いきいきポイント制度スタート

介護支援いきいきポイント制度とは、65歳以上の方が介護ボランティア活動を通じて地域に貢献することで、高齢者自身の介護予防の推進と、いきいきとした地域社会づくりを目的とした制度です。

ボランティア活動を行いスタンプを集めると、翌年度にスタンプの数に応じて換金できます。（最大五千円）

まずは制度に登録が必要です。受付窓口は、市社会福祉協議会で、玉島支所又は倉敷ボランティアセンター（くらしき健康福祉プラザ）他倉敷市内社協支所にて登録できます。

あすなろ園職員の研修参加

園では介護・福祉の専門職としての知識、技術、経験に即した教育、スタッフ研修を行っています。園内で企画する研修や左記のような外部で開催される研修にも積極的に参加しています。また個人の資質向上を目的に資格取得を奨励し、その支援を行っています。

平成22年6月～の研修参加状況

平成22年度岡山県福祉職員生涯研修会（中堅コース）
植田文華・河合敏章・藤井悦子・八塔明代
接遇リーダー研修会……鳥羽泰代・鹿嶋陽子
岡山県福祉職員生涯研修会（新任コース）…平松　優・竹内裕貴
給食施設栄養管理研修会……田中裕子
平成22年度栄養職員研修会……白神佳代子
介護支援専門員更新研修……武縄和弘
平成22年度介護福祉士会一般研修会……田辺由紀子
平成22年度高齢者虐待対応現任者研修……本山和人
痴呆症キャラバンメイト養成研修……池内知鶴
岡山県福祉職員生涯研修会（指導コース）……浅原順子
特定給食従事者講習会……安光亜矢
老人福祉施設のための会計セミナー……西山展弘
青年経営管理セミナー……藤井茂樹

ご寄付御礼

平成22年6月1日より
平成22年10月4日まで

岡本キミコ様　西岡　進子様
森石　修二様　鈴木　明様
加山　節夫様　中藤　光廣様
野田　乳販様　野田タンス店様
中上　旦夫様　曽根　房夫様
原田マサコ様　岡部　泰明様
㈱ニックワールド岡山営業所様
ドクイーン㈱様
玉島テレビ放送様
㈱玉島信用金庫　勇崎支店様
セイノーシルバー事業部イイダ様

職員表彰おめでとう

消火技術大会で表彰

10月1日倉敷市消防総合訓練場で開催された、第22回消火技術訓練大会にあすなろ園職員が出場。

消火器部門で女子の部が入賞。坂本美幸・岩崎未紗チーム

あすなろ園勤続十年表彰

ケアマネージャー　増川　由香
介護福祉士　加藤恵三子
介護福祉士　丸山　里香
調理師　渡辺　幸子

ボランティア ありがとうございます

平成22年6月1日より
平成22年9月30日まで

桑名　純朗様　徳田ヤス子様
白神　美子様　中藤　政恵様
末吉　和子様　西　れい子様
上野美登里様　三宅久美子様
松島　香織様　藤田美恵子様
中村さみ江様　守下　操様
葛間　宏子様　小林　政子様
菅　恵子様　小野　孝子様
西井　桂子様　河村　京子様
柴　典昭様　高尾　明義様
浅原二三江様

ボランティア団体

玉島和太鼓愛好会様
竹内流銭太鼓様
柏台おかめ会様
柏台愛育委員会様
柏台カラオケ同好会様
柏台栄養改善協議会様
カラオケ「和」様
田邉省二と歌声喫茶様
歌う幸福会様
水島五月会様・寿会様
瀬戸内銭太鼓様・萬一座様
楽団シルバースター様
玉島商業高等学校　野球部様
カトレア会様
夏まつりボランティア皆様
八幡保育園様
あすなろ園家族会様

新入職員の紹介

福山平成大学卒
事務員
西山　展弘

この度事務職員としてお世話になることになりました。

一日も早く仕事を覚えられるよう頑張りますので宜しくお願いします。

一陽来福

中藤　和雄

「葉隠れに散りとどまれる花のみぞ　忍びし人に逢う心地する」（西行法師）「葉隠聞書」はこの歌から生まれたと聞きました。葉に隠れてひそやかに、耐え偲んで咲く一輪の花の心こそ武士の心だと。「武士とは死ぬことと見つけたり」は、威勢はいいが、入園者の通夜に参席し涙を流す介護士に、ふとこの歌を思い出しました。

見習いカメラマンの一席

夏祭りの一コマです（タイトル：母をさづかう息子の目線）

編集者
「あすなろだより」
家族会広報担当　中藤　和雄

社会福祉法人松園福祉会
あすなろ園
理事長　中塚周一

「あすなろ園は地域と一体」

皆様には、平素よりあすなろ園の運営に対しまして、ご理解ご協力を賜り、心より感謝申しあげます。あすなろ園を利用される皆様も快適な生活を送ることができております。

とりわけ地域の皆様には、ボランティアとして、また、講師として、環境整備、クラブ活動、行事などでの演芸、屋台のお手伝いなどなど、多岐にわたってご協力いただいており、地域の人なくしてあすなろ園は無いと言えます。

福祉施設というものは、その存在はあってもどのような施設なのかは、外部からは、わかりにくいものです。そのため、施設の社会化が必要ということが、かねてより課題とされてきました。

あすなろ園は、平成三年の開設当初より、特別養護老人ホームの生活の中やデイサービスのプログラムの中に、外部講師を招いてクラブ活動や、誕生会をはじめとする行事に、地域から演芸慰問に来ていただいております。

また、特養入所者の家族会も組織していただき、ふれあい喫茶や清掃活動なども通じて多くの入園者の方や職員とも触れ合っていただいております。夏祭りや文化祭などの大きな行事の時は、地域のボランティアの皆様や家族会の皆様に先頭に立って屋台や演芸に汗を流していただき、地域からの来場者も年々増え、地域と一体となって、楽しいひと時を過ごすことができています。さらには、小学生の社会見学、中学生の職場体験、高校生の清掃ボランティア、大学生の実習やボランティアなどの受け入れも積極的に行い、それらを交流の場としての有意性と福祉介護の現場を知る貴重な機会として、施設が提供する大きな意義として実施しています。

あすなろ園では、これらの他にも、柏台の小規模デイサービスで地域密着型介護サービスを展開したり、居宅介護支援事業所や玉島南高齢者支援センターでは在宅ケアの専門スタッフが地域の相談窓口として積極的に地域に出向き、要介護者の相談に応じたり、地域の様々な困難事例にも対応してきております。

あすなろ園は、これからも地域と一体になって、利用される皆様のしあわせと、地域の皆様の安心介護拠点として行きたいと思います。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

「家族会座談会」櫛風沐雨（せっぷうもくう）

十月十日家族会の定例会後、幹事の方に、入園までの生活状況から、今の話をして頂きました。以下その抜粋です。

出席者
家族会会長……多鹿　真澄
幹事……工藤　治
幹事……小松原英子
幹事……松江シズエ
司会・オブザーバー
虫明正雄園長

▲右から：多鹿会長・工藤幹事・虫明園長・小松原幹事・松江幹事

園長・「最初に入園者との関係を。」

多鹿・「私の実母ですが、家内の方が実の親子のように思われています。」

松江・「羨ましい関係ですね。私は父と母と九年前に一緒に入園させて頂きましたが、母は六年前に亡くなり、今は父がお世話になっています。」

小松原・工藤・「私も実母です。」

櫛風の日々

園長・「それでは、入園までの経緯を、お聞かせ下さい。」

多鹿・「私の実家は兵庫県の小野市にあり、そこで父母は生活していましたが、十二年前に父が亡くなりました。その時母の言動がおかしいのに気づき病院でみてもらったら認知症といわれました。インターネットで調べ、あすなろ園のディサービスを受けることになりました。しかし、娘が病気で入院し、娘の家で孫と母の面倒をみていた家内は大腸ガンになってしまいました。そこで、ショートスティをお願いしました。ショートスティでお世話になっているとき、園の人に、家では大変でしょうから入園したら、と勧められました。その話を家内にすると「退院したら面倒看るから」と言っていたが、私の一存で申込みました。」

工藤・「私の母は十二年前に大腸ガンになり、入院、手術をしました。骨粗鬆症のため通院し、グループホームで過ごしていましたが、股関節骨折入院することになりました。手術するにも体力が無いのでできません。長い入院生活が続きました。幸いにも、あすなろ園を知っていたので、入院中に申込み、入園まで病院にいました」

松江・「十三年前に私の兄弟の家を回って、父と母が私の家にきました。そのうち父が脳梗塞で入院。母は五十歳ごろから目が悪く、軽い認知症にかかっていました。父の入院後すぐに、「退院しても介護がたいへんですよ」と言われ、入園手続きをしました。父の退院後約一年後に、父・母ともに入園しました。」

小松原・「六十八歳のとき、大腸ガンと胆石で入院。七十八歳のときは脳梗塞と脳血管性認知症と診断入院。退院後は私が居ないと食事もとらないので、ディサービスに世話になりましたが、「行きたくない」と一時家に居ましたが再度ディサービスとショートスティを利用させて頂きました。」

園長・「家に居るときに一番困ったことは……」

多鹿・「とにかく、場所が判らない、風呂、洗面所、トイレ、いたるところに貼り紙をしました。」

小松原・「私のところも同じでした。特にうちの母は私が居ないと何もしないので困りました。食事の用意をして出かけ、帰ってみると、食事はそのままで、机を投げ飛ばしていました。風呂もトイレも私と一緒でなければ入らない。母娘がまったく逆転した状態でした。」

工藤・「私のところは通院中は、車に乗れるのは私だけでしたので、仕事との折り合いをつけるだけで、家では私を困らすようなことはありませんでした。」

園内の生活

園長・「入園後の生活は……」

多鹿・「私達の生活は、夜中に起きることもなくなり外出も自由にできるようになりましたが、母は私は判るのに、家内のことを、同級生や昔の職場の人と間違って話しているのを見るのはつらかったです。一番尽くしてくれた家内には、「ごめんネ」と言ってはいますが……。」

園長・「多鹿さん自身の体調は？」

多鹿・「実は私も家内がガンにかかって一年後に、胃の切除をしました。退院後も通院していますが、日常生活は大丈夫です。」

工藤・「入園当時は「家に帰りたい」と言っていましたが、認知症が進んでくるにつれて、帰りたいとは言わなくなりました。しかし、私がいくと「ああ、兄さんまた来てくれたのかい」これには私も寂しいですね。それも、機嫌がいい時で悪い時に面会に行った妹達は他人と間違われるという状態です。嘱託医の中塚先生には「この人は心臓が強いから長生きしますよ」と言われました。が、今年も二回危ない時がありました。そのときは、「看取り介護」をお願いしました。」

看取り介護

松江・「看取り介護」はどのようにするのですか？」

園長・「終末期を迎え医療的処置が必要でなくなった時、ご家族・嘱託医師・施設とでよく話しあい、医師の管理の下で、人の尊厳を第一に、ご家族と共に施設で看取りをいたします。」

多鹿・「最近テレビ、新聞でも話題になっていますが、家族の人が泊まれますか？」

園長・「二階に静養室を用意し、家族の方が寝泊りできます。」

小松原・「入園者の終末の介護は、介護士さんや看護師さんも大変でしょう。」

園長・「特に若くてそのような、経験のない介護士さんは精神的に厳しいと思います。毎日、食事、排泄、入浴介助と、家族同様の生活を送って来た人が亡くなるのですから。通夜のときは、私が言わなくても、担当した介護士数人が参席していますね。そして涙を流しながら、別れを惜しんでいます。」

今が一番幸せです

園長・「最後に現在の心境を聞かせて下さい。」

小松原・「母が子供のようで私が母。このような状態が続いても、私にとって今が一番しあわせです。」

多鹿・「最近、前から撮っていたビデオを母の妹（私の叔母）に観てもらったら、「姉ちゃんはしあわせだな」と喜んでくれました。とにかく、母に長生きして欲しい。」

工藤・「ここに入ったことが、今になって一番良かったと思っています。」

松江・「父には少しでも長生きして欲しい。ここに入っていれば私も安心ですから。」

園長・「長時間ありがとうございました。これからも入園者は元よりご家族にも安心していただける施設になるよう努めて参ります。」

いきいきライフ

敬老の日

◀百歳の敬老会

◀百一歳の敬老会

夏祭り

▼夏祭りに家族全員集合

▲誕生日：家族との昼食は一年ぶり

▲外出：「やっぱり寿司はうまいのう」

▲ひいばあちゃんと一緒の夏祭り

秋祭り

▲何年ぶりかな「せんでぇろく」をみるのは

▲黒崎本村北の千歳楽

▲西浦子供会のみなさん